

三人のどろぼう

(新潟県^{にいがたけん})

むかし、京^{*きょう}の三角^{*}、江戸^{*えど}の三角^{*}、越後^{*えちご}の三角という三人のどろぼうがいました。

ある日のこと、三人のどろぼうは、ある大金持ち^{おおがねも}の家^おにぬすみに入りました。ところが、まだ何もとらないうちに見つかって、たくさんの若い衆^{わかしゅう}にとり囲^{かこ}まれてしまいました。三人は、

「わたしどもはこの家に入っただけで、まだ何もとらないうちに、つかまってしまいました。どうか、こんどばかりはお助け^{たす}ください」と、一生けん命^{めい}たのみました。けれども、家の主人^{しゅじん}は、

「それでもどろぼうにはちがいない。ゆるすわけにはいかない」といって、しょうちいません。そこで、三人は、

「それなら、これからおもしろい芸^{げい}をやってごらんに入れますから、それでゆるしてください」とたのみました。すると主人は、

「では、やってみろ」といいました。

三人は、主人から、長い竹ざおを借り^かると、それを庭^{にわ}のまんなかに立てました。そして、まず京の三角がとんびになって、竹の先に止まりました。つぎに、江戸の三角がねずみになり、越後の三角が豆^{まめ}になりました。それから、ねずみが豆を口にくわえて、竹の先へするすると登^{のぼ}っていきました。みんながおどろいて見ていると、とんびがねずみを口にくわえて、そのままどこかへ飛^とんでいってしまいましたとさ。

おしまい

* 京 京都^{きょうと}のこと。

* 江戸 東京^{とうきょう}の昔^{むかし}のよび名。

* 越後 新潟^{にいがた}県の昔^{むかし}のよび名。